

事務事業名 生涯学習センター自主学习グループ連絡会補助事業

出力日：令和02年03月19日

キーコード：626

施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090601-13-00
基本事業：	02	家庭・地域の教育力を高める教育活動の充実	担当部	教育部
基本事業の成果指標	地域活動・学習活動に参加している市民の割合 ボランティアバンクの活動者数（延べ人員） ボランティアバンクの活動者数（実人員）		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習総務担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和48年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
生涯学習センター自主学习グループ連絡会		生涯学習フェスティバル内の自主学习グループまつり等の活動・運営補助として補助金を交付する。 【補助金交付の流れ】申請書提出 申請内容確認 補助金交付 実績報告 【生涯学習センター自主学习グループ連絡会の活動内容】 ・総会・理事会・四役会等の運営に関する会議 ・自主学习まつりの開催（代表者会・実行委員会） ・館外学習会、館内学習会 ・各グループ交流会				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
自主学习グループが相互に連絡提携を図り、行政の指導に寄らず自ら主体的に生涯学習を進める。						

4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称	単位	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	目標	
		実績	実績	当初	要求	計画	計画		
自主学习グループ連絡会団体数	団体	37	38	40	40			55	
自主学习成果を生涯学習フェスティバルで発表した参加者数	人	740	760	800	800			1,100	

5. コスト									
事業費	計	千円	180	180	180	180			
	国	千円		0	0	0			
	県	千円		0	0	0			
	地方債	千円		0	0	0			
	その他	千円		0	0	0			
	一般	千円	180	180	180	180			
正職員人工数	人工		0.1	0.1	0.1				
正職員人件費	千円		800	809	807				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円		980	989	987	180			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	自主学习を支援する制度としては、平成22年度に利用登録団体制度が整理された。生涯学習センター使用料の半額免除、年間定期利用、生涯学習フェスティバルへの参加等の支援が行なわれ、およそ140団体が自主的に活動中である。自主学习グループ連絡会に属する各団体も利用登録団体として登録済みであるため、連絡会の存在目的は既に達成されている。発展的解散が望ましいと考えられるため、引き続き検討・協議を進める。								

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	あり						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）									
改善方向性					維持	見直し	廃止	事業終了	
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
自主学习グループ連絡会と類似のものとして、「筑紫野市生涯学習センター利用登録団体」を平成22年度から制度化している。しかし、施設予約等のメリットが変わらないことから、制度を見直し、整理する必要がある。									

事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
昭和48年、中央公民館開館（昭和47年5月）をきっかけに、市民の自主学习の増加を目指し、連絡会組織を立ち上げられた。平成13年の生涯学習センター開館に伴い名称を変更。引き続き支援を行っている。									